

# 市議会で西川議員が質問 現場確認し県が対策

## 琵琶湖の高水位、彦根湖岸被害 浜欠け、薩摩町や新海浜で



立入禁止ロープが張られた薩摩町の浜欠け現場

本紙五日付二面のフォトスケッチ「琵琶湖増水、湖岸「水没」の危機」で取り上げた状況が、その後も続く水位上昇で深刻化している。彦根市内では薩摩町と新海浜の湖岸で「浜欠け」現象が発生、県や市が危険防止のロープを張るなど緊急対策を始めた。開会中の彦根市議会でも一般質問で取り上げられた。

百円にロープを張り「危険立入禁止」の表示を付けた。現場は従来、幅数から十坪ほどの砂浜があったが、増水と強い波のため消滅し、陸地が崖のように水際へ落ち込み危険な状態。石垣の岬がある近くでは最大一坪近くの段差が発生し、陸地が大きく後退している。

地元の話によると、一月初めに浜欠け現象を発見して県や市に通報、その後状況が悪化したため再度連絡したところ、三月になって

ロープを張る処置がとられたという。同町では人家のない北側の松林で平成十五年に大規模な浜欠けが発生し、松の大木が大量に倒壊、県議会でも問題になり応急措置がとられた。人家がある集落内での浜欠け被害発生は、過去の大水害時を除けば近年では初めてという。

琵琶湖の浜欠けは高水位維持政策や高波、上流ダム建設による流砂減少などが原因と考えられる湖岸浸食。国土交通省近畿地方整備局の琵琶湖河川事務所では、毎年十月十六日から翌年六月十五日までの「常時満水位」をプラス三十センチとしており、水位が高く強い北西風の時、彦根市など琵琶湖東側の湖岸が波に浸食を受ける。今年は今月初めに新海浜でも確認され、県が現場にロープを張って立入禁止の規制をしている。

### 市議会質問・答弁

開会中の彦根市議会三月定例会の一般質問で、西川正義議員（新公政会）が薩摩町の浜欠けについて「県の管理だが市も見逃さすことはできない」として取り上げた。西川議員は浜欠けの発生原因や現状確認、安

全対策、今後の対応について質問。都市建設部長が答弁し、原因はプラス三十センチの水位操作と季節風による波浪が助長しており地形や風、河川からの供給土砂量などが複合して起こり特定は困難と説明した。

現状確認と安全対策について、三月一日に地元から通報を受け翌日県と市職員が現地約百坪の浜欠けを確認し立入禁止のロープや看板を設置した、今後も定期的にパトロールし、二十二年度に詳細な現況調査を行い、対策を検討すると県から聞いていますと答弁した。